

■オーストラリア：2009年度予算案で低炭素エネルギーに45億豪ドル

財務省は2009年5月13日、2009-2010年度の予算案を発表した。歳入は2,906億豪ドル、歳出は3,382億豪ドルで、戦後最大の財政赤字となる。スワン財務相は、次年度の予算案の目玉として鉄道・道路・港湾など大規模インフラに投資をする一方で、福祉予算を削減しており「不況下の厳しい予算案である」とコメントしている。エネルギー・環境関連分野では、45億豪ドルが計上され、そのうち、二酸化炭素回収・貯留（CCS）技術の開発支援に20億豪ドルを投じ、CCS設備を備えた火力発電所を2～4カ所建設する。また、大規模太陽光発電所の建設に13億6,500万豪ドルを投じ、発電所を4カ所建設する。太陽光の設備容量は合計で約100万kWとなり、世界最大規模となる見通し。それぞれのプロジェクトは、2010年中頃までに事業者を選定し、2012年に着工、2015年運転開始を目指す。その他、再生可能エネルギーの更なる普及拡大を支援するため、再生可能エネルギー研究機関「リニューアブル・オーストラリア」を新たに設立することが決定された。同予算案に対して、野党自由党は、政府は景気回復と経済成長の基礎を築くため、雇用創出、財政赤字の縮小、中小企業支援などに注力すべきと主張、緑の党も目新しい環境対策はなかったとして批判した。